

人未満」は56・6%（同54・2%）、「50人〜100人未満」は41・5%（同42・6%）にとどまった。

担当者は「障害者雇用の充実は道半ば。社内に前例がなく、二の足を踏む企業もあるが、多くの受け皿を確保できるよう指導していく」としている。（角拓哉）

支援校終えたら

障害者の「大学」

久喜できよう開所

障害者らが学ぶ特別支援学校を終えた人たちが、その後「学び」を継続するための「あかり学園久喜」が

完成した施設でパソコンの基本操作を学ぶ利用者ら



1日、久喜市青毛2丁目に開所する。運営する障害者支援のNPO法人あかりは「障害者の『大学』といった位置づけで、学びを前面に独自の取り組みをした」としている。

2年間のカリキュラムには、自立に必要とされる数学や国語のほか、パソコン

の基礎、音楽や美術などの文化活動も盛り込んだ。施設建設に先行して昨年4月から春日部市の仮施設で生徒7人が学んできた。12月に200平方メートルの建物が完成。県の福祉サービス事業の指定を受け、正式にスタートする。

4月からの「新入生」を含め、定員は20人。利用者負担は活動費などで月1万円。海外への「卒業旅行」も計画しているという。総合マネジャーの小林誠さん（45）は「学びに集中することで、大きな成長が期待できる」と話す。（高橋町彰）